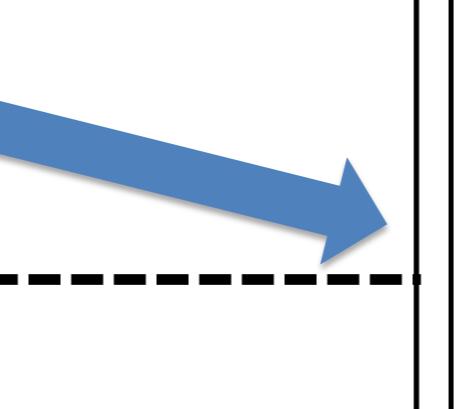


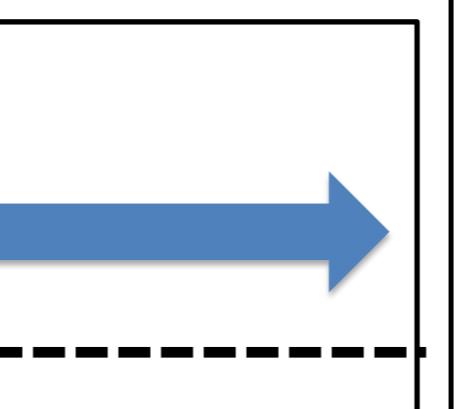
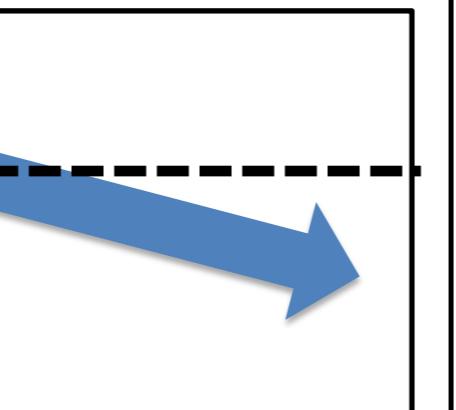
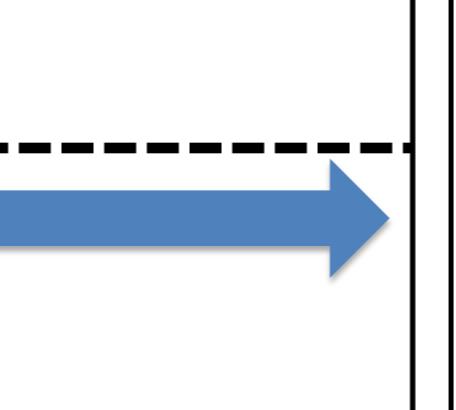
野菜の需給・価格動向レポート(平成28年5月23日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	4月の価格情報			5月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月上旬までの見通し	レポートの読み方については、注意書きを参照してください。					
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			「図の見方」					
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬			現時点の価格水準	今後の価格水準				
葉茎菜類	キャベツ	88.59	102 (115%)	118 (133%)	88.59 (105%)	93	・入荷量：18,358t ・主産地：千葉（42）、神奈川（28）、愛知（16）	平均価格	千葉産は、最盛期を迎えており、天候に恵まれ生育は順調で、前進傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。	千葉産及び神奈川産の出荷が平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年をやや上回って推移する見込み。	千葉産は、天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調で肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるもの、佐賀産が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。		
		91.02	94 (103%)	114 (125%)	91.02 (119%)	108	・入荷量：4,064t ・主産地：愛知（40）、兵庫（15）、福岡（8）							
	たまねぎ	95.80	80 (84%)	76 (79%)	78.12 (86%)	67	・入荷量：13,780t ・主産地：佐賀（53）、兵庫（16）、千葉（6）	平均価格	佐賀産は、天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調で肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるもの、佐賀産が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。	兵庫産は、天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調で肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるもの、佐賀産が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。		
		95.80	83 (87%)	71 (74%)	78.12 (83%)	65	・入荷量：5,099t ・主産地：兵庫（52）、佐賀（38）							
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31	352 (127%)	392 (141%)	277.31 (193%)	535	・入荷量：3,784t ・主産地：茨城（36）、千葉（31）、埼玉（14）	平均価格	茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、太りも良いことから、平年より多めの出荷となっており、前進出荷となっていることから、今後は、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、出荷終盤で平年並みの出荷となっており、5月下旬にはおおむね切り上がりとなる見込み。	茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。	茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、太りも良いことから、平年より多めの出荷となっており、前進出荷となっていることから、今後は、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、太りも良いことから、平年より多めの出荷となっており、前進出荷となっていることから、今後は、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		334.73	382 (114%)	454 (136%)	334.73 (144%)	483	・入荷量：219t ・主産地：徳島（53）、香川（18）、三重（12）、奈良（12）							
	はくさい	67.05	89 (133%)	75 (112%)	67.05 (89%)	60	・入荷量：6,032t ・主産地：茨城（93）	平均価格	茨城産は、出荷終盤を迎える中、平年より少なめの出荷となっており、今後も春先の気温が高めで適度な降雨もあり前進出荷となっていたことや病害虫の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷となる見込み。	茨城産の出荷が平年よりやや少ないと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	茨城産は、出荷終盤を迎える中、平年より少なめの出荷となっており、今後も春先の気温が高めで適度な降雨もあり前進出荷となっていたことや病害虫の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷となる見込み。	茨城産は、出荷終盤を迎える中、平年より少なめの出荷となっており、今後も春先の気温が高めで適度な降雨もあり前進出荷となっていたことや病害虫の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷となる見込み。		
		74.06	95 (128%)	97 (131%)	74.06 (115%)	85	・入荷量：2,760t ・主産地：長崎（36）、茨城（27）、熊本（16）、長野（12）							
果菜類	ほうれんそう	376.10	466 (124%)	515 (137%)	376.10 (118%)	442	・入荷量：1,419t ・主産地：群馬（36）、茨城（32）、埼玉（9）、岩手（9）	平均価格	群馬産は、気温高と適度な降雨による順調な生育により、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。	群馬産は、気温高と適度な降雨による順調な生育により、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	群馬産は、気温高と適度な降雨による順調な生育により、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		416.73	462 (111%)	544 (131%)	416.73 (123%)	514	・入荷量：525t ・主産地：岐阜（62）、福岡（13）							
	レタス (結球)	156.23	166 (106%)	141 (90%)	156.23 (88%)	137	・入荷量：7,689t ・主産地：茨城（37）、長野（34）、群馬（18）	平均価格	茨城産は、気温が高めで天候に恵まれ前進出荷となっていたことから、平年よりやや少なめの出荷となっており、5月下旬でおおむね切り上がりとなる見込み。長野産は、気温が高めで適度な降雨もあり、天候に恵まれ前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷となる見込み。	長野産の出荷が平年より多いと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	茨城産は、気温が高めで天候に恵まれ前進出荷となっていたことから、平年よりやや少なめの出荷となっており、5月下旬でおおむね切り上がりとなる見込み。長野産は、気温が高めで適度な降雨もあり、天候に恵まれ前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷となる見込み。	茨城産は、気温が高めで天候に恵まれ前進出荷となっていたことから、平年よりやや少なめの出荷となっており、5月下旬でおおむね切り上がりとなる見込み。長野産は、気温が高めで適度な降雨もあり、天候に恵まれ前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷となる見込み。		
		165.00	171 (104%)	155 (94%)	165.00 (94%)	155	・入荷量：1,646t ・主産地：長野（49）、兵庫（34）							
	きゅうり	266.63	259 (97%)	233 (87%)	189.84 (120%)	227	・入荷量：8,482t ・主産地：埼玉（30）、群馬（21）、茨城（12）、千葉（10）	平均価格	埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、一部に病害がみられるものの大きな影響はなく、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	埼玉産、群馬産及び茨城県産の出荷が平年並みと見込まれるもの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、一部に病害がみられるものの大きな影響はなく、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、一部に病害がみられるものの大きな影響はなく、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
		254.91	260 (102%)	236 (93%)	186.08 (126%)	234	・入荷量：1,849t ・主産地：富崎（37）、高知（20）、徳島（12）、群馬（9）、愛媛（9）							
	トマト (大玉)	356.77	367 (103%)	320 (90%)	230.55 (120%)	277	・入荷量：9,934t ・主産地：栃木（23）、熊本（21）、愛知（12）、千葉（10）、茨城（8）、埼玉（6）、群馬（4）	平均価格	栃木産は、生育が順調で、平年並みの出荷となっており、今後は夏秋ものが前進傾向であることから、平年よりやや多めの出荷の見込み。熊本産は、地震被害のあった一部の選果場でも生産者及び生産者団体の努力により、ほぼ平年並みの出荷が行われるようになっている。不安定な天候で出荷に波はあるものの、平年並みとなっており、今後は天候が安定すると思われ、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、生育は順調で、平年よりやや多めの出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、やや小玉傾向ではあるが、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	熊本産、愛知産、千葉産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	高知産は、11月の曇天の影響が少し残っており、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候が良く徐々に回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、夜温が低いことや一部で病害が散見していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	高知産の出荷が平年並みと見込まれるもの、福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	茨城産は、順調な生育となっていることから、平年並みの出荷となっているものの、草勢があまり良くないことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。	茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みとなっている価格は、平年を上回って推移する見込み。
		337.87	374 (111%)	323 (96%)	239.96 (119%)	285	・入荷量：1,925t ・主産地：熊本（68）、福岡（8）、愛知（6）							
根菜類	なす	347.77	387 (111%)	380 (109%)	311.92 (124%)	386	・入荷量：4,034t ・主産地：高知（42）、福岡（21）、群馬（10）	平均価格	高知産は、11月の曇天の影響が少し残っており、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候が良く徐々に回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、夜温が低いことや一部で病害が散見していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	高知産の出荷が平年並みと見込まれるもの、福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	高知産は、11月の曇天の影響が少し残っており、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候が良く徐々に回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、夜温が低いことや一部で病害が散見していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	高知産の出荷が平年並みと見込まれるもの、福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
		330.95	370 (112%)	363 (110%)	271.01 (133%)	361	・入荷量：1,067t ・主産地：高知（32）、熊本（20）、大阪（17）、福岡（15）、岡山（8）							
	ピーマン	339.20	441 (130%)	435 (128%)	339.20 (131%)	445	・入荷量：3,079t ・主産地：茨城（73）、高知（9）	平均価格						

種類		4月の価格情報		5月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月上旬までの見通し	「図の見方」	
		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格			現時点の価格水準		
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	中旬	下旬	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	上旬	今後の価格水準		
いも類	ばれいしょ	138.39	215	206	138.39	182	・入荷量: 10,378t ・主産地: 長崎 (58)、鹿児島 (20)、北海道 (13)		
		(155%)	(149%)		(132%)		・入荷量: 2,906t ・主産地: 長崎 (67)、北海道 (14)、鹿児島 (14)		

注: 1 平均価格は、過去6カ年間(平成20~25年)の関東及び近畿の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
8 キャベツの平均価格は、上段が5月1~15日まで、下段は5月16日~31日までの価格である。

種類		4月の価格情報		5月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月上旬までの見通し	「図の見方」		
		(参考)過去5カ年平均価格		(参考)過去5カ年平均価格			現時点の価格水準			
		東京・大阪市場の旬別価格	東京・大阪市場の旬別価格	中旬	下旬		今後の価格水準			
洋菜類	ブロッコリー	384.68	615	453	313.45	459	・入荷量: 2,439t ・主産地: 埼玉 (29)、香川 (14)、愛知 (13)、福島 (10)、米国 (8)			
		(160%)	(118%)		(146%)		・入荷量: 612t ・主産地: 徳島 (31)、鳥取 (20)、香川 (19)、長崎 (9)			
葉茎菜類	アスパラガス	1220.98	1,406	1,553	1159.23	1,428	・入荷量: 872t ・主産地: 福島 (22)、栃木 (14)、秋田 (12)、北海道 (10)、長野 (10)、山形 (8)			
		(115%)	(127%)		(123%)		・入荷量: 142t ・主産地: タイ (26)、長野 (26)、福岡 (12)、長崎 (11)、熊本 (11)			
葉菜類	こまつな	304.65	267	256	214.35	198	・入荷量: 1,094t ・主産地: 茨城 (44)、埼玉 (29)、東京 (12)			
		(88%)	(84%)		(92%)		・入荷量: 359t ・主産地: 福岡 (77)			

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の80%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

2 トピック 一 アスパラガスの需給動向等について 一

今回は、いよいよ国産が旬を迎える本格的に出回ることとなるアスパラガスの需給動向等について紹介する。

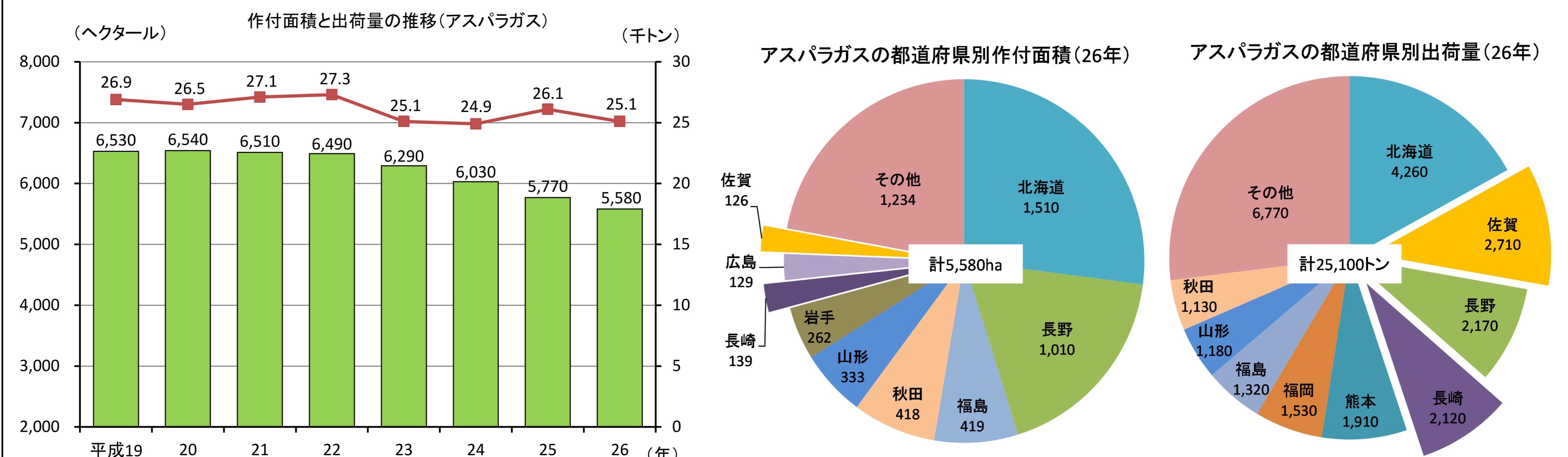
アスパラガスは、江戸時代にオランダから観賞用として輸入され、繁殖するときじが隠れることができるほど生い茂ることから、「オランダキジカクシ」という名がつけられている。食用として本格的に栽培が始まったのは大正時代で、戦前は主に欧米輸出向けとして、ホワイトアスパラガスが生産されていたが、戦後は生活が豊かになり、また、健康志向も高まる中で、生鮮用のグリーンアスパラガスが主体となってきている。最近では、生鮮用のホワイトアスパラガス、紫アスパラガス、ミニアスパラガスなど、多様化してきている。

アスパラガスは多年草で、苗を植えてから1~2年間の育成後、2~3年目から収穫ができるようになり、概ね10年で苗の植え替えが行われる。アスパラガスは堆肥を施用すればするほど収量が増えることから「畑の豚」ともいわれている。

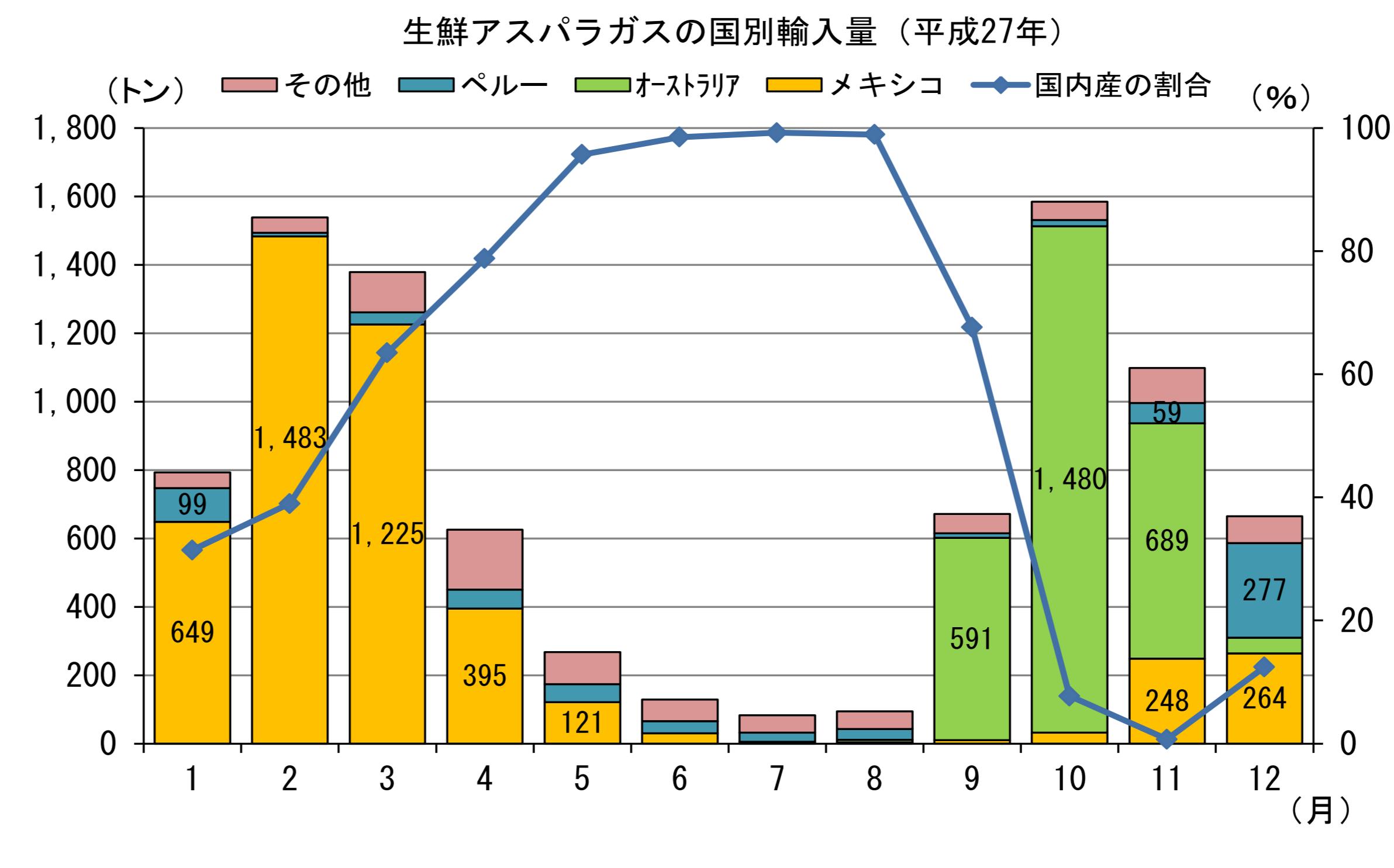
作付面積をみると、平成14年の6400ヘクタールから26年の5580ヘクタールと13%減少しているが、近年の出荷量は2万5千トン前後で安定的に推移している。この背景の一つとして、佐賀県や長崎県などの九州の産地で立莖栽培が広まっていることがある。立莖栽培とは、従前は春芽の収穫(1月~5月頃)のみであったところを、雨よけハウスを導入して夏芽の収穫も行うもので、収穫期間が1月から10月と大幅に伸び、単収の増加につながっている。

このため、佐賀県と長崎県は、作付面積がそれぞれ全体の2%台であるのに對し、出荷量は佐賀県が10.8%、長崎県が8.4%となっている。都道府県別にみると、北海道(4260トン)が最も多く、次いで佐賀県(2710トン)、長崎県(2170トン)、長崎県(2120トン)と続き、この4道県で全国の5割を占めている。

国産の出荷時期はだいたい3月から9月頃で、端境期となる9月から11月はオーストラリア産、12月から3月はメキシコ産の輸入が多くなっている。アスパラガスの輸入量をみると、国産の出荷期間の拡大等から、平成12年の2万4767トンをピークに減少傾向で推移し、26年は1万1741トンとなっており、消費量の約7割を国産が占めている。



資料:ベジ探(原資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」)



資料:ベジ探(原資料:財務省貿易統計)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishi/yajukyu01_000058.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。